

動物衛生研究部門 越境性家畜感染症研究領域

疫学・昆虫媒介感染症グループ

2023年3月

イノシシの豚熱検査結果の分析概要

イノシシでの豚熱感染が確認されている 34 都府県における豚熱感染状況と免疫獲得状況について分析した。

<東北地方>

- ・岩手県、宮城県、及び山形県では、小規模ながら感染が確認されており、今後とも感染が維持される可能性がある。
- ・秋田県と福島県では、感染の確認は限局的である。今後とも感染の動向に注意する必要がある。

<関東・甲信越地方>

- ・茨城県、栃木県、及び埼玉県では、感染が確認されており、今後とも感染が維持される可能性がある。
- ・群馬県、神奈川県、及び新潟県では、感染の確認は限局的である。今後とも感染の動向に注意する必要がある。
- ・東京都、山梨県、及び長野県では、数ヵ月間感染個体が確認されていない。一時的に感染イノシシが認められなくなった地域でも、再び新たな感染が確認されることがあるため、今後の再発について注視する必要がある。

<北陸・中部地方>

- ・岐阜県では、2022年1月以降、感染頭数が増加傾向にあり、12月までに68頭の感染が確認されている。2020年7月以降は、免疫獲得個体よりも感受性個体の割合が高い状態となっており、2022年9～12月は感受性個体の割合が77～86%、免疫獲得個体の割合が11～18%であった。免疫獲得個体の割合が低く、感受性個体の割合が高くなっている中で、感染増加の兆しが見られることから、今後とも感染の維持・拡大に注意する必要がある。
- ・愛知県では、2021年10月に1年ぶりに感染個体が確認されて以降、小規模ながら感染が継続的に確認されている。岐阜県と同様、愛知県でも、2020年夏頃から、免疫獲得個体の割合の減少と感受性個体の割合の増加が確認され、免疫獲得個体よりも感受性個体の割合が高い状態となっている。2022年12月時点では、感受性個体の割合が72%、免疫獲得個体の割合が22%であった。愛知

県でも、小規模ながら感染が確認されており、免疫獲得個体の割合の減少と感受性個体の割合の増加が確認されていることから、今後も感染の維持・拡大に注視する必要がある。

- ・静岡県では、2020年5月以降、感受性個体の割合は60～85%で、免疫獲得個体の割合は13～37%で推移している。東部を中心に小規模ながら感染が確認されており、今後も感染が維持される可能性がある。
- ・富山県、石川県、及び福井県では、感染個体の確認は散発的である。今後も感染の動向に注視する必要がある。

<近畿地方>

- ・滋賀県、三重県、及び兵庫県では、小規模ながら感染が継続的に確認されており、今後も感染が維持される可能性がある。
- ・京都府、大阪府、奈良県、及び和歌山県では感染個体の確認は散発的であり、数ヵ月間感染個体が確認されていない地域もある。今後も感染の動向に注視する必要がある。

<中国・四国地方>

- ・島根県では感染が継続しており、広島県と山口県でも小規模ながら感染が確認されている。鳥取県では今のところ感染の確認は限局的である。これらの地域では感染確認からそれほど時間が経過していないことから、今後も感染が維持される可能性がある。
- ・徳島県と高知県では、小規模ながら感染が確認されており、香川県では今のところ感染の確認は限局的である。これらの地域では感染確認からそれほど時間が経過していないことから、今後も感染が維持される可能性がある。